

日置黙仙 ひきだて 僧侶。弘化四年一月二十三日伯耆國生れ。大正九年九月（二百歿）（二八四七一八九〇）。幼名源之助。號可睡齋、吉祥山主、睡翁。維室、明鑑道機禪師。諸嶽尖堂に參禪し印可を受く。各地の住職を經て可睡齋に入寺、京政公胤はる。明治三十三年曹洞宗代表として暹羅 シヤム（現タイ國）に赴く。歸國後、名古屋東郊に覺王山日蓮寺佛骨塔を建立。また暹羅國王戴冠式、アメリカカゴの萬國佛教大會に列席した他、支那、朝鮮等を巡教。大正五年永平寺貫主、次ついでに曹洞宗管長となる。著書に『黙仙禪話』（大正六年一月十八日松榮堂書店）、『無一物處』（大正九年一月五日東亞堂書房→縮刷名著叢書）等の他、大場道賢執筆 日置黙仙 『青島臺灣巡錫録』（大正四年六月三十日静岡・大場道賢刊）、アメリカ巡錫記録の山上天川記『黙仙破草鞋』（大正五年二月二十五日光融館）がある。

